

5月定例記者会見 会見録

令和8年（2026年）5月12日（火）11:00～11:15 庁議室

質疑応答

■つくば市緑の基本計画：市民ワークショップの開催について

記者A

全4回開催されるワークショップについて、フィールドワークで巡る場所や講師等、詳細な内容を教えてください。

建設部

5月24日(日)、5月31日(日)の午前と午後で全4回開催します。第1回はつくば駅周辺で開催し、フィールドワークではセンター広場からペDESTリアンデッキ、中央公園を巡る予定です。第2回はグループワークのみ実施します。第3回は荃崎地区で開催し、荃崎第二小学校から荃崎運動公園野球場、健康遊具広場を巡ります。第4回は、つくば市役所近辺で開催し、はなのき公園から公共緑地、ブランド研究学園店前遊具広場等を巡る計画をしています。

記者A

講師はどなたが務められるのでしょうか。

建設部

委託先の（株）千代田コンサルタントが専門家を呼ぶことになっております。

記者A

市内に公園や自然が多いという理由で他県からの移住者も多くなっていると思います。市では生物多様性の計画等、様々な環境保全の計画を策定されていると思いますが、「第2次つくば市緑の基本計画」を策定する狙いを改めて市長に伺います。

市長

平成17年に策定し、平成28年に改訂していますが、その間に、世界でも緑に対する目線は相当変化してきていると思います。豊かな自然が都市の中にあり、森林が居住地の近くにあることが、つくば市の大きな特徴です。身近にある緑について、どのように価値を見出して、市民に還元し活用に繋げていくかということは、極めて大きなテーマだと

思っております。「第2次つくば市緑の基本計画」の策定では、緑の量や質、更新が非常に大きなテーマとなっており、それらをどのように考えていくかという視点で今回ワークショップを行います。ヨーロッパの都市等では、駅前のアスファルトを剥がし、木を植えて、緑化していくという流れも生まれていますし、先般視察したイギリスのバーミンガムでも、河川のアスファルトを剥がして自然に戻していく動きも出てきております。つくば市も研究学園都市の建設が決定してから約50年が経過していますので、どのような緑にしていくのかを考えて、それをつくばの価値として生かしていけるのかを、「第2次つくば市緑の基本計画」で定めていければと思っております。また計画段階ですが、例えば、樹木医等との意見交換等も行っていく予定ですので、つくば市の緑の価値をより高めていくための計画にしたいと思っております。

■アピランスケア支援事業について

記者A

従来の支援とどのように違うのか教えてください。

こども・保健部

県ではこれまでも同様のサポート制度がありましたが、市独自でウィッグ等の補助を始めたのが今年度からになります。

記者A

上限2万円で費用の2分の1を助成するとのことですが、全体の予算額と、利用見込み人数を教えてください。

こども・保健部

予算は200万円で、100名分の予算をとっております。昨年度、つくば市内で県の制度を利用した方が83件でしたので、同程度に見込んでおり不足はしないと考えております。

■第46回つくばマラソンの開催について

記者B

コース変更をして2回目の開催となりますが、改めてアピールポイントやコースの魅力を教えてください。

市長

昨年、大幅なコース変更を行ったことで、駅からのアクセスが良く、平坦なコースで記録が狙え、紅葉や景色を楽しめるようになりました。そして何より大きく変わったのは、

沿道の応援が非常に力になったというような声をたくさんいただきました。私もゴール地点でランナーを迎えていましたが、本当に「コース変更してくれてありがとう」という声をたくさん聞きました。これまでももちろん良いコースではありましたが、景色に変化がなく、静かに淡々と走らなくてはいけないエリアがかなり長かったので、都市の中に移ってきたことによって、真のシティマラソンとして新たな一歩を踏み出せたのではないかと考えております。今回もぜひ多くのランナーの皆さんに申し込みをいただきたいと思っています。前回は一般申し込みを受け付けてから30分で埋まってしまったので、今回1,000名増員しております。もう少し人数を増やしたかったのですが、コース変更して様々な調整が必要でしたので、徐々に数も増やしていきたいと思っています。恐らく今回もあっという間に埋まってしまうとは思いますが、ふるさと納税をしていただければ早期にエントリーできますので、ぜひそちらをメディアの皆さんにはご紹介いただければありがたいと思います。

終了